

キャラバンカー乗車記

全国キャラバンで沖縄からレシビエント号を長期間にわたって運転していただいたレシビエントの孕石弘さんと、北海道からドナー号で出発したドナーの山中さん(お二人は兄妹)の「乗車記」を紹介いたします。

沖縄から乗車して

孕石 弘

6月の沖縄全国大会の宿泊先で朝食を食べているとき、キャラバンの話を初めて聞きました。旅好きの私たちは話を聞き「すぐに乗りたい」と言いました。子供の夏休みとちょうど重なるので一家4人で乗ろうと。夜ピアホールでの打ち上げの時「乗ってもいいよ」と言われたときは嬉しかったです。その日からの1カ月はとても長く感じました。特に1週間前は、仕事をしても落ち着かなくなりとうとう休んで自宅でウズウズしていました。そしていよいよスタート。それからの1カ月間はあれよあれよという間に過ぎました。



各地を廻ってみて感じたことは、骨髄バンクのこと血液難病のことは、まだまだ世間に知られていないと言います。臓器移植と混乱していた副知事や、我が市には、白血病人はいらぬのかなあと言った市長助役、骨髄液は脊髄で取ると勘違いして、しびれるんじゃないかと言っていたある市長などさまざまでした。自分も病気になつていなければならぬと思う1人だったかもしれないと思う反面、今回のキャラバンで、少しでも理解し協力していただけたことを祈ります。



山中ひろみ

北海道から乗車して

山中ひろみ

私が、今回のキャラバンに参加しようと思ったのは、兄がレシビエント号に乗るのなら、ドナー号に乗るのは私じゃあないの?という単純な考えからでした。それでも中途半端な気持ちで首をつっこんではいけないという気持ちと、以前から私も何かできたらなあと思いつつ日々過ごしてきて、動き出すのなら今なのではないかという気持ちの間で揺れ動きながらも、勇気を出して参加表明をしました。私の怒なお願ひにもかかわらず、快く承諾いただき、細路の出発式、北見、帯広と秋田に参加させていただきました。恥ずかしい話、私は患者家族でありながら「骨髄移植」はおろか「骨髄バンク」さえも知りませんでした。兄が発病しなければ何も知らずに毎日過ごしていたと思います。何か所もお役所などをまわり、いろいろな方と話をする度に、無知

な私は今の骨髄バンクの状況、患者さんの状況などを知ることができました。また私は、今まで兄の病気にあまり口外したことはありません。そんな中で元患者の方、患者家族の方との出会いがあり自然と話をすることができました。胸のどこかにつかえていたものがとれたような気がしました。兄が言っていたことはこのことだ

全国キャラバン 各地報告

秋田

副知事から千羽鶴が

7月18日、全国キャラバンのスタートを記念して、街頭での登録受付をしました。秋田駅前広場でチラシを配りながら登録希望者には特設テントでビデオを見て頂き、徒歩5分の献血ルームで採血するという方法で19名の方が登録されました。

検査の人数制限の為、泣く泣く予定よりかなり早く終了してしまいました。街頭で呼び掛けをすれば、一日で40〜50人は登録してくれる様な感触を得ました。キャラバンカーの到着は7月27日、この夏一番の暑さの中、田沢湖町にて岩手の橋本さんから引き継ぎ、県庁、県議会、9市2町、骨髄データセンター、マスコミ各社を4日間かけてまわり、アピール文を伝達しました。どちらでも温かい出迎えを受け、坂東副知事から、励ましとキャラバンの成功を祈って千羽鶴を戴きました。31日は由利本荘青年会議所主催

8月6日に宮城より引き継いだドナー号は、8月9日に無事栃木へと引き渡しました。4日間、炎天下を県内約500kmを破走しました。その間、独自に飾りつけ用意したキャラバン伴走車の他、乗用車も含めて計4、5台で走り続けました。4日間で延べ110名のボランティアの参加により、10カ所のショッピングセンター等で約6000枚のチラシを配布致しました。今回は署名活動を優先したのでチラシ配布は



8月6日、仙台南インターで宮城より引継ぎ

福島

保険適用署名も 1500人獲得

「菖蒲カーニバル」に参加させて頂き、夜は花火を見て5日間の労働をねぎらい、翌日新庄市の最上保健所での集団登録会場で無事山形に引き継ぎました。名古屋から駆け付けて手伝って下さった山中さん、運転を担当して下さった「連合秋田」の皆さん、本当にありがとうございました。(菅)

少なかつたのですが、約1500人の方々に署名をいただきました。今回の目玉は、骨髄移植経験者の記野淳子さん(高2)が2日間参加してくれたことです。県庁訪問の際は、知事代理の渡辺出納長に「私の場合はドナーが見つかるまで5年間待ちました。もっと登録が増えて、ドナーがすぐ見つかるようになると良いと思います」と語り、マスコミの注目を集めました。表敬訪問したデータセンターでも、所長に淳子さんから花束を贈呈し、いつも休日登録で無理なお願いをしている感謝の意を表しました。

埼玉

日本初の社内集団登録

民間企業では初めての社内集団登録が、8月18日富士ゼロックス岩槻事業所で行われ、31名が登録をしました。これは、今回の全国キャラバンの主旨に共感した同事業所と労働組合が共同で社員に呼びかけて取り組まれたものです。集団登録に先立って、8月4日に説明のための講習会が開かれ、登録用ビデオの上映、埼玉連絡会の会員であるドナーと患者家族からの話、移植医師への質疑などが行われました。集団登録後、担当課長の長谷川さんは、「強制感を伴わないように、講習会は勤務時間終了後、登録は昼休みにしました。予想以上の登録者でよかった。」と感想を述べていました。(笠原)

山口県内では8月7日までの3日間、豊田町役場、宇部市役所、陸上自衛隊山口駐屯地、山口県庁、山口キャリアデザイン専門学校、市役所、岩国YMCA、山口大学医学部付属病院などを訪問しました。(猶)



山口県内では8月7日までの3日間、豊田町役場、宇部市役所、陸上自衛隊山口駐屯地、山口県庁、山口キャリアデザイン専門学校、市役所、岩国YMCA、山口大学医学部付属病院などを訪問しました。(猶)

山口

下関市役所では 平家太鼓が歓迎

8月5日にレシビエント号は関門海峡を渡って本州に上陸しました。まずは本州の玄関である下関市役所への表敬訪問です。下関市はキャラバンに運動して、2回の休日一斉登録と3回の市職員の一斉登録を市役所ロビーで行いました。市役所ロビーでチラシ配りティッシュ配りのあと、玄関前で地元早稲高校の平家太鼓部の演奏と興奮のなか、キャラバンカーを江島下関市長をはじめ市役所職員や一般市民、報道陣約300人が出迎えました。そして市役所玄関ロビー内で歓迎式典が始まりました。最初に市長より歓迎の挨拶があり、そのあと骨髄バンクを支援する山口の会(なお)会長が大きな声でアピール文の朗読をし、市長に手渡しました。セレモニーを終えたキャラバンカーは再度玄関前で平家太鼓の演奏の応援を受け、次の目的地へ出発しました。

リゲインが あるじゃないか。

黄色と黒のチカラ。肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に。

J-リゲイン

●大人1日1回1本、J-リゲイン 100ml・194円
価格はメーカー希望小売価格(本体価格)

健康?!

ワンランク上の昆布パウダーが あなただけの健康をバックアップ

アロイダ-U

健康志向のあなたに、海の恵の贈り物

●この一本。

本気で考えるなら

Takara

8月15日、県西部観光地(花回廊)にて約一時間、ピラ配りをし、鳥取大学付属病院の子供たちにはサンリオのグッズをプレゼントしてきました。そして最後に陸上自衛隊の駐屯地を訪問し、副連隊長を訪ねアピール文を手渡ししてきました。

今回のキャラバンで多くの県民に、骨髄バンクを知って頂くことができ、大変有意義な3日間でした。(坂本)